

谷口博文の政策イノベーション



～日本と欧米のアプローチの違い～

イノベーションをめぐる世界の都市間競争は熾烈です。スタートアップを産み育て成長させる生態系つまり地域エコシステムをテーマに、政策研究大学院大学でエジンバラ大学との共同セミナーが開催されました。

エジンバラから、都市のエコシステムをどう評価するか問題提起があり、日本からは政府、民間、自治体からそれぞれスタートアップ育成の取り組みが披露されました。

エジンバラに限らず米国のシリコンバレーやボストン、オースティンなどイノベーションの震源地には、大学や研究所、アクセラレータ、法律や会計の専門家、VCや投資家などが、有機的に連携して活発に活動しています。

日本ではこういうエコシステム形成を通じて競争力ある都市を作ろうとするのですが、国や東京都などの自治体のプレゼンは従来からある補助金を使った中小企業対策や企業誘致の文脈で政策を語るの、相当違和感がありました。その点、スタートアップの特徴に即した福岡市の取り組みは際立っていたように思います。

もう一つ興味深かったのは、大企業と連携するオープンイノベーションの取り組みが日本でもビジネススペースで進んでいることです。アクセラレータのように民間主体で動くのが当然なのに、日本ではうまくいかないから役所が税金を使って支援するということになりがちです。その点プラットフォーム型のビジネスでオープンイノベーションに取り組むベンチャー企業のプレゼンは興味深いものでした。